

大好き図書館！  
「郷土資料」の収集

12月1日号で「郷土資料」と「郷土資料コーナー」について紹介しましたが、今回はその収集について紹介します。

公共図書館では、たくさんの方が利用できるように、日ごろから資料（図書、記録、視聴覚、その他の方式の資料）の収集に努めることが図書館法によって定められています。

特に「郷土資料」は図書館法第3条1項で「収集に十分留意するもの」の筆頭に挙げられており、地域独自の歴史、文化、自然などの記録を保存するという重要な役割を担っています。

このように大切な「郷土資料」の収集ですが、中には購入できるものと、できないものがあります。

新しく出版された書籍や音・映像資料、新聞などは書店や販売店等で購入することができますが、出版から相当の年数が経過した書籍は絶版になっていたり、個人や小規模な団体が出版したものの中には、最初から書店での取り扱いがないなど、購入することができないものも多く存在します。

こういった購入不可能な資料の中には、市内の団体や個人から寄贈していただいたものが多数あります。もし、ご家庭で眠っているものの中に、郷土に関する資料があれば、淡窓図書館に連絡をいただくと幸いです。

新刊情報

総理の誕生  
阿比留瑠比／著  
文藝春秋



最強総理はこうして誕生した。1998年7月に産経新聞政治部に配属された直後から今日まで18年余、ひとりの記者としてずっと安倍晋三をウォッチし続けてきた著者が明かす、肉声秘話。

人魚姫の椅子  
森晶磨／著  
早川書房



瀬戸内海に面した椅子作りが盛んな町、宝松市鈴香瀬町。高校生の海野杏は、毎朝海辺で小説を書きながら椅子職人を目指す同級生・五十鈴慧斗と少しだけ話すことを日課としていた。そんなある朝、慧斗から「高校をやめて町を出る」と告げられる。時を同じくして、杏は親友の翠からラブレターの代筆を頼まれる。そのラブレターから、小さな町を揺るがす失踪事件が始まるとも知らずに。

また、最近では日田古代史研究会から郷土の先哲について描かれた大型紙芝居を寄贈していただきました。



この紙芝居は、日田古代史研究会の日田歴史紙芝居制作事業として、市内の学校と協力し、日田市出身の漫画家久世みずきさんの監修によって作られたものです。「広瀬久兵衛」「行徳元彦」「大蔵永常」「井上準之助」「日田どん」の計5作を寄贈していただきました。

また、この紙芝居の大きさに合わせて特別に作られた紙芝居台も一緒に寄贈していただいています。

大型紙芝居の貸出は、学校や団体のみとなりますが、イベントでの利用などに是非活用してください。



おいしいふくやさんのしさやか／作・絵  
ひさかたチャイルド



『はごろもや』はおいしいふくやさん。おみせのしゅじん、はごろもさんのてにかかれば、みんなおいしくなりたいたべものたちがやってきて…。どうなるのでしょうか？読み聞かせにぴったり。

おいでよ！  
おはなし会

- とき  
2月25日(土)  
午前11時～正午
- ところ  
児童コーナー

2月の休館日（○…休館日）

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

世界遺産登録を目指す「咸宜園」 - 近世日本の教育遺産として - ⑩

地域の自然や文化遺産を活用した教育  
会所宮・鬼塚



閩世界遺産推進室（咸宜園教育研究センター内） ☎ 20268

咸宜園では構内の授業だけでなく、ときには師弟同行して、ときには塾生たちだけで、しばしば周辺の山野、河川、神社・仏閣などに出向き、弁当を開いて食事をし、詩を詠むなどを行いました。

このように、塾の休日である「放學」、山歩きをした「遊山」が淡窓の日記などに見られます。

今号では、放學・遊山の地としての「会所宮・鬼塚」を紹介します。

淡窓の日記に、淡窓三十八歳の文政二年（一八一九）三月に会所宮を訪れた記事があります。伯父月化に従って散歩し、塾生七名とともに、大原で桜の花を観賞した後、会所宮の後山（会所山）に登っています。が、「樹木遍く生じて蹊徑あることなく、且つ、頗る峻嶮にして上り難し。中ごろ梅いて留らんと欲すると数度なり。漸くにして、絶頂に至る。三隈川、隈町を樹木の間より見たり」と述べ、苦勞して登った山頂から日田の町を眺めています。その帰路に会所宮の旧知の神官の家で茶を飲み休憩して帰っています。

会所宮は、日田駅近くの会所山の麓にある神社で、会所山は国見岳または遠見岳ともいい、「豊後国風土記」に、景行天皇の巡幸の時、日田の女神比佐津媛が人の姿となって出て迎えて国状を報告した所であるとされ、景行天皇御腰掛石（影向石）などがあります。神功皇后が三韓征伐の時にこの地に軍勢を集めたので会所の名があるといわれ、また、成務天皇の時、日田国造の鳥羽宿禰がここに居住して常に庶民を集めて耕作

のことなどを教えていたので会所の宮と呼ばれたともされています。会所宮は、恵楚宮とも書かれ、承保元年（一〇七八）に放生会が大原神社で始まって以来、御神幸は会所宮にありましたが、貞享四年（一六八七）に若八幡社（宮太夫）に変更されてからは途絶えていません。

淡窓は、刃連方面にも赴いています。文政十一年（一八一八）、淡窓四十七歳の二月には、弟の伸平、謙吉（旭莊）、門下生十余名と散歩して、鬼塚に登り、下井手を経て上井手に至り民家で弁当を開き、三隈川を小舟で下り帰っています。

また、天保十一年（一八四〇）、淡窓五十九歳の二月には、弟の久兵衛、伸平らと田島の稻荷社（龍馬森神社）に詣でて桜の花見をして、会所宮に至り、鬼塚に登り、下井手から三隈川に沿って帰っています。

鬼塚は、会所宮の近くの田んぼの中にある古墳状の塚です。淡窓が、鬼塚を詠んだ漢詩があります。

鬼塚  
小山は全て剥落し  
巨石は尚ほ穹隆たり  
鬼塚は何人の塚なるや  
人伝ふ 是れ鬼工なりと  
（小さい塚は（樹木が）すべて剥れ落ち、巨石がその上に曲りくねっている。鬼塚は誰の墳墓であろうか。人々は鬼神の造ったものだと言いつづけている）



会所宮神社（現地写真）

食生活改善推進員さんのおすすめレシピ

うま塩豚汁



<材料> (2人分)

- 大根 50g
- 人参 20g
- ごぼう 30g
- 小ねぎ 適量
- 豚ごま切れ肉 50g
- ごま油 小さじ1
- だし汁 1と1/2カップ
- みそ 大さじ1
- トマトケチャップ 大さじ1

大分県では、県民の食塩摂取量の低減を目指し、県産の「旨み」を持つ食材を「上手く」活用した「うまい」塩分控えめの食事＝「うま塩レシピ」を家庭や外食で普及しています。

豚汁のみその半分をトマトケチャップにすると、旨味や甘味、酸味、香りが加わり、30%ほど減塩することができます。

和食にトマトケチャップ…一度試してみませんか？

<作り方>

- ①大根と人参は皮をむき、いちょう切りにする。ごぼうは斜め薄切りにする。小ねぎは小口切りにする。
- ②豚肉は一口大に切る。
- ③鍋にごま油を熱し、豚肉を炒める。野菜を加え、さらに炒める。
- ④鍋にだし汁を加え、野菜が柔らかくなるまで煮る。
- ⑤みそとトマトケチャップを加える